

# オアシス新聞

第8号

## 鬼は外！豆まいて邪気払い

節分は年に1回だけでなく、4回あることをご存知ですか？ 広く一般に知られている「節分の日」は2月3日で、その翌日は立春となります。立春とはその日から春が始まるということ、つまり季節替わりの節目の日となります。ですから節分は四季ごとに立夏、立秋、立冬そして立春のそれぞれ前日というように、4回あるわけです。

2月3日の節分は、豆まきなどの行事が現在でも受け継がれています。旧暦だった時代は立春頃がお正月にあたります。そこで豆をまくことにより、一年の邪気を祓うという慣わしが、現代に受け継がれているのです。

邪気を具現化した「鬼」を想像したとき、みんなだいたい同じような姿のものをお願い浮かべます。角を生やし、トラの皮のパンツをはいているものではないでしょうか？ ではなぜ鬼はそのような姿になったのでしょうか。鬼が出入するといわれる鬼門は、北東の方角にあると考えられています。昔は時刻や方角を表す際は干支が用いられていて、北東は丑寅(うしとら)となります。そのため頭に牛の角をはやし、トラのパンツをはいたお馴染みの姿が創りだされたという訳です。

最近節分と言つと、恵方巻がすっかり定着してきました。本来は関西発祥の慣わしで、バレンタインデーなどと同じように、海苔の販売促進の目的が当たりにして全国に広まったようです。七福神にちなんで7種の具材を巻いた太巻きを、願いを思い浮かべながら恵方を向いて切らずに丸かじりするといったものです。今年の恵方は東北東。恵方巻をまだ食べたことがない方も、今年は挑戦してみたいかがですか？

鬼は外、と  
2回言いながら  
豆をまき、  
鬼が戻って  
来られないよう  
すべし(窓を)  
閉めましょう。  
その後  
福は内、と  
2回言いながら  
豆をまきます。  
奥の部屋から順番に  
鬼を追いつくように  
まきましょう。



豆まきが終つたら  
みんなで数え年  
(その年に誕生日を  
むかえてなる年令)  
の数だけ豆を食べます。  
年の数だけ食べるのが  
むすかしくなったり  
豆3粒と梅干し  
こんぶ(佃煮)や  
塩こんぶ(のり)に  
み湯をそそいだ  
「福茶」にしていただきます。



鬼は焼いたイワシの  
くさい臭いと  
目に刺さるヒイラギの葉が  
大きらい。  
戸口にヒイラギの枝に  
焼いたイワシの頭を刺して  
取り付けると  
鬼がスッマコないと言われこいます。

